

地域医療連携だより

やまびこ

発行日：平成 28 年 7 月 発行：高山赤十字病院 高山市天満町3丁目11番地 TEL 0577-32-1111 発行責任者：地域連携課

常勤 放射線専門医を
お迎えして
骨粗鬆症治療ネットワーク
のスタートはじまる

- 診療の紹介 血液内科・呼吸器科
- 新任医師の紹介
- Cancer Board

常勤の放射線診断専門医をお迎えして

日頃は、高山赤十字病院共同機器利用をご利用頂き、誠にありがとうございます。

平成28年4月より高山赤十字病院放射線科に常勤の放射線診断専門医 可児裕介先生をお迎えしました。

今までは、当日撮像した共同機器利用の画像のみ（CD等）を患者様にお渡ししており、読影レポートは後日ということになっておりました。もし当日、先生方の診察等で、読影レポートをご希望の場合は、従来よりも患者様の待ち時間が1時間ほどになりますが、画像情報（CD等）と読影レポートを一緒にお持ち帰りいただくことが可能となります。尚、金曜日の午前中など放射線診断専門医が不在の場合は対応できない事もありますが、ご了承ください。

患者様が早めのご帰宅を希望された場合、読影レポートは、今までどおり後から送付となります。当科でも、なるべく開業医の先生方に迅速かつ正確に画像情報を届けたいと考えておりますので、希望される開業医の先生方はその故、お知らせいただければ対応したいと思います。

今後とも高山赤十字病院の共同機器利用をよろしくお願い致します。

■ 読影レポートの同封を希望される場合 ■

「医療機器共同利用検査依頼書」に“読影レポート同封希望”とご記入ください。

※無記入の場合は、従来どおりCDもしくはフィルムのみ患者さまにお渡しします。

※月～木 8:30～10:30 左記の時間に共同利用をご利用の場合は、医師の勤務時間の都合上、読影レポートの同封対応はできません。何卒ご了承ください。

金 8:30～14:00

■ 留意点 ■

※患者さまには、画像CD&読影レポートをお渡しするまでに、

検査終了から1時間程度の待ち時間があることを、事前にご了承ください。

※CDのみ患者さまにお渡しし、読影レポートをFAXさせていただく場合も、**検査同日中もしくは検査終了後2日以内**には、FAXと郵送いたします。

可児先生の専門分野

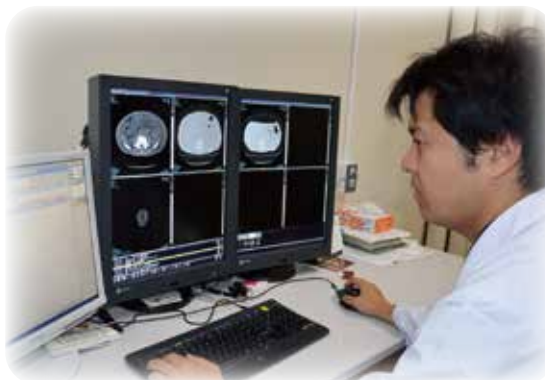
専門医・認定医

日本医学放射線学会放射線診断専門医・研修指導者

日本インターベンショナルラジオロジー学会専門医

日本核医学会核医学専門医・PET核医学認定医

日本がん治療認定医機構がん治療認定医



内科 血液内科

血液内科 福野 賢二

血液内科では白血球、赤血球、血小板や凝固に関連する疾患を診療しています。代表的疾患としては悪性リンパ腫、白血病、骨髄異形成症候群、多発性骨髄腫や特発性血小板減少性紫斑病があります。

その他に頻度は多くありませんが、慢性骨髄増殖性腫瘍（真性多血症、本態性血小板血症）、メソトレキセート関連リンパ増殖性疾患、原発性マクログロブリン血症、再生不良性貧血、自己免疫性溶血貧血、発作性夜間血色素尿症、血栓性血小板減少性紫斑病、血球貪食症候群、血友病、抗リン脂質抗体症候群、伝染性単核球症、亜急性壊死性リンパ節炎なども診療しています。

当科で最も多い疾患は悪性リンパ腫です。表在リンパ節腫脹や鼻咽頭症状で耳鼻科や外科に受診して診断されることは少なくありません。その他に消化管内視鏡検査、精巣切除や皮膚生検で診断されることもあります。腹部傍大動脈や肺門・縦隔のリンパ腫は超音波内視鏡下生検で診断がつく場合があります。悪性リンパ腫といっても多様な組織型があり治療方法は単一ではありません。血

液学会や世界の主要がんセンターのNPO（同盟）団体であるNational Comprehensive Cancer Network (NCCN) が作成した診療ガイドラインを参考に治療を行っています。高齢者の方でも治療が期待できる場合は薬剤用量を減量して積極的に治療しています。

白血病には急性骨髄性白血病、急性リンパ性白血病、慢性骨髄性白血病、慢性リンパ性白血病、慢性骨髄単球性白血病や成人T細胞白血病などがあります。急性骨髄性白血病や急性リンパ性白血病で強力な化学療法を行う時には原則としてアイソレーターを設置した個室での治療を行っています。慢性骨髄性白血病はすぐれた内服薬があるため外来治療を行っています。慢性リンパ性白血病は貧血や血小板減少等がなければ経過観察することが多いです。成人T細胞白血病は沖縄県と南九州に多いとされますが、飛騨地域でも発症しますので診療の念頭におく必要があります。

血液内科の外来初診は水曜日です。緊急性があると判断した場合は早急な対応をさせていただきます。

■ 血液内科のご案内 ■

診療日：毎週 水曜日 受付時間：8:00～11:00

■ 地域連携にてご予約いただく場合 ■

紹介状に血液データを添えて、地域連携課までFAXしてください。
地域連携課より予約通知書をFAXいたします。

※いただきました紹介状と血液データは、医師により拝読させていただきます。
予約通知書をお送りするまで数時間要することもあります。
あらかじめご了承くださいませようお願い申し上げます。

ご紹介頂く受診動機の症状について：咳嗽

診療所の先生方からご紹介頂く受診動機の主なものに、咳嗽、呼吸困難（急性、慢性）、胸部異常陰影があります。今回は、咳嗽の患者さんについてお話しをさせていただきます。

咳嗽が出現してから3週間目くらいまでの対応 (診療所での対応)

まず、咳嗽のある患者さんには、**咳エチケットの啓蒙**（施設内にポスター掲示）とその中心事項である**“患者さんにマスクを着用して頂くこと”**が感染防止の観点から重要です。

そして、

- ① 問診により明確な誘発因子（薬剤、喫煙など）が認められる場合は、それらの除去を行ってください。
- ② 咳嗽以外の自覚症状（発熱、喘鳴など）や聴診によるラ音の聴取や胸部X線上の異常陰影が認められる場合は、それらの異常による特異的な検査や治療を進めることとなります。咳嗽は、ほぼ全ての呼吸器疾患が原因になり得ます。肺炎、肺癌、間質性肺炎、肺結核など重篤化し得る疾患の除外のため、1～2週間以上持続する咳嗽患者ではまず胸部X線写真（正面像となるべく側面像も）を撮影してください。尚、肺炎を疑って治療される場合、時に、肺結核、肺癌が潜んでいる可能性もありますので、可能な限り治療前に喀痰検査（一般細菌、抗酸菌、時に細胞診）を行って頂く事をお勧めします。

咳嗽は持続期間により、3週間未満の急性咳嗽、3週間以上8週間未満の遷延性咳嗽、8週間以上の慢性咳嗽に分類されます。このような分類を設けることにより、咳嗽の原因疾患がある程度推定できます。即ち、急性咳嗽の原因の多くは感冒を含む気道の感染症であり、持続期間が長くなるにつれ感染症の頻度は低下し、慢性咳嗽においては感染症そのものが原因となることは稀です（但し、肺結核や感染後咳嗽を除いて）。

また、咳嗽は喀痰の有無によって、喀痰を伴わないか少量の粘液性喀痰のみを伴う乾性咳嗽と、咳嗽のたびに喀痰を伴い、その喀痰を喀出するために生じる湿性咳嗽とに分類されます。よって、原因診断は、病歴と検査所見から疑い診断（治療前診断）をつけることから始まります。

・咳喘息

夜間～早朝の悪化（特に眠れないほどの咳や起坐呼吸）、症状の季節性・変動性

・アトピー咳嗽

症状の季節性、咽喉頭のイガイガ感や掻痒感、アレルギー疾患の合併（特に花粉症）

* 咳喘息やアトピー咳嗽との問診所見と共に、発作性の呼吸困難、喘鳴或は聴診上 Wheeze を聴取すれば、気管支喘息の可能性が高くなります。

・副鼻腔気管支症候群

慢性副鼻腔炎の既往・症状、膿性痰の存在

・胃食道逆流症

食道症状の存在、会話時・食後・起床直後・上半身前屈時の悪化、体重増加に伴う悪化、亀背の存在。

・感染後咳嗽

上気道炎が先行、徐々にでも自然軽快傾向（持続期間が短いほど感染後咳嗽の可能性が高くなる）

・慢性気管支炎

現喫煙者の湿性咳嗽

・ACE 阻害薬による

服薬開始後の咳

以上のような病歴に合わせて、血液検査（IgE [RIST、RAST]、マイコプラズマ抗原、百日咳抗体、腫瘍マーカー、TスポットTbなど）、喀痰検査（一般細菌、抗酸菌、細胞診）、画像検査（胸部XP、CT）、肺機能、呼気NO濃度（今年度予定）、上部消化管内視鏡等や耳鼻科受診を行います。ご紹介

頂いた場合、病歴と可能な範囲で行った検査結果に基づく治療前診断に対する特異的な治療を行います。

主要な原因疾患において診断的治療に用いる特異的治療は、

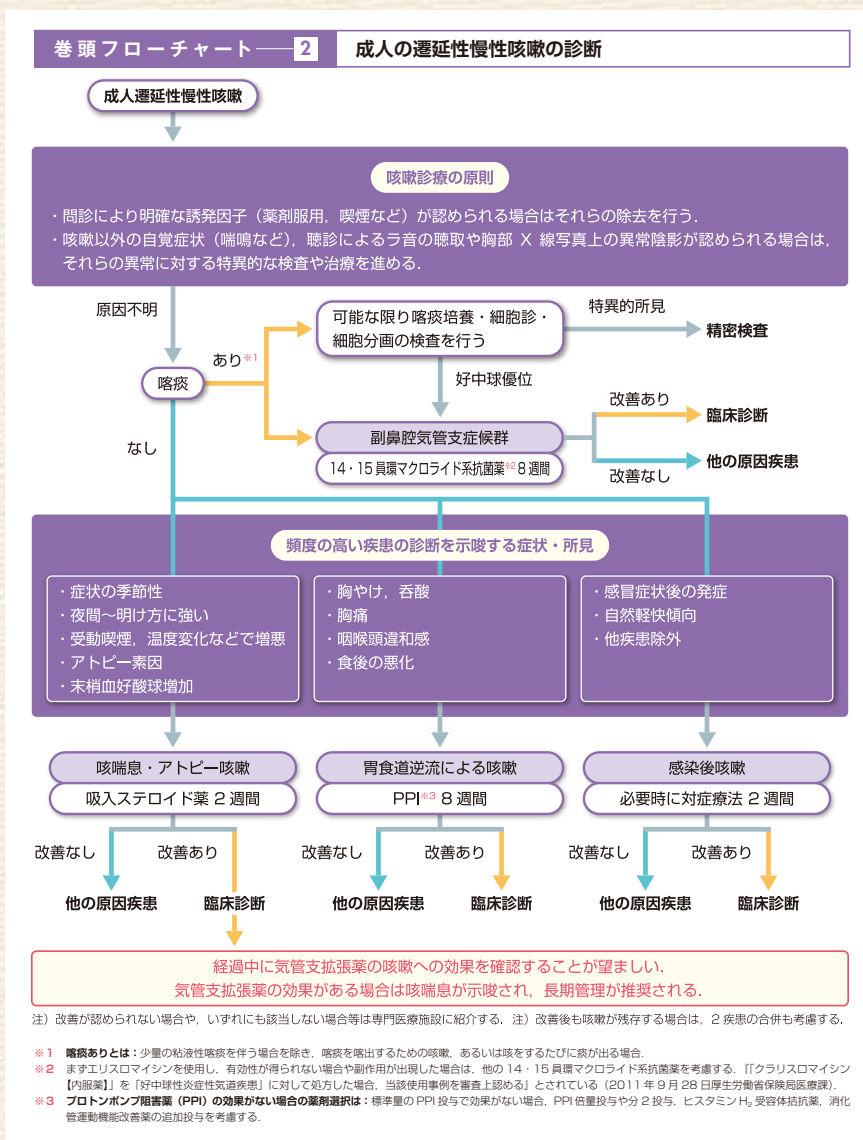
- ・ 咳喘息：気管支拡張薬
 - ・ アトピー咳嗽：ヒスタミン H1 受容体拮抗薬
- 上記2疾患は、実際には、吸入ステロイド+気管支拡張剤の合剤使用
- ・ 副鼻腔気管支症候群：マクロライド系抗菌薬
 - ・ 慢性気管支炎：禁煙
 - ・ ACE 阻害薬による咳：薬剤中止
 - ・ 胃食道逆流症：プロトンポンプ阻害薬またはヒスタミンH2受容体拮抗薬

それが奏効したら初めて診断が確定し(治療後診

断)、導入療法、維持療法へと移行致します。咳喘息については、咳嗽の再燃の予防のため、また、咳喘息では数年の内に約30%の患者が喘息を発症すると言われており咳喘息からの喘息発症の予防を目的に吸入ステロイド薬による維持療法を2年程度実施することが推奨されています。咳喘息以外の原因疾患では、治療薬を徐々に減量・中止すればよいと思われます。

大きくは以上のような流れです。尚、咳喘息の維持療法になった場合、気管支喘息の診断となった場合、再度、診療所の先生方に逆紹介をさせていただきますので、何卒宜しくお願い申し上げます。

尚、咳嗽患者さんの当院へご紹介の際には、お手数ですが、咳エチケット、とりわけ、マスク着用での受診をご説明頂ければ幸いです。



■ 呼吸器内科のごあんない ■ 診療日：毎週 月曜日・火曜日・金曜日
受付時間：8:00~11:00

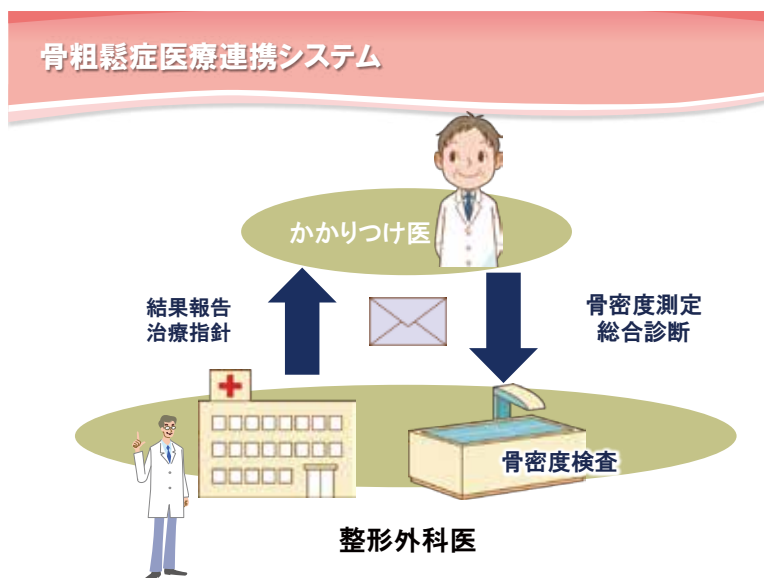
岐阜県骨粗鬆症治療ネットワーク G-Knotの稼働

整形外科 岩田 崇裕

わが国では急速に高齢化が進み、それに比例する形で骨粗鬆症が深刻な問題となっています。高齢者の大腿骨近位部骨折は増加の一途をたどっており、現在年間18万例ほど発生しておりますが、2040年には30万例を越すと推定されています。高齢者の多くは、高血圧、心肺疾患、腎機能障害や糖尿病などいくつも疾患を併発されており、骨折の治療だけでなく併存疾患を含めた治療が必要です。それらの治療には多職種での連携が必要不可欠となっております。骨粗鬆症の治療は年々進歩しており、飲み薬の他に注射や点滴で投与する薬も出てきました。しかし高齢者の骨折を効果的に予防していくためには、整形外科専門医による適切な治療が必要です。

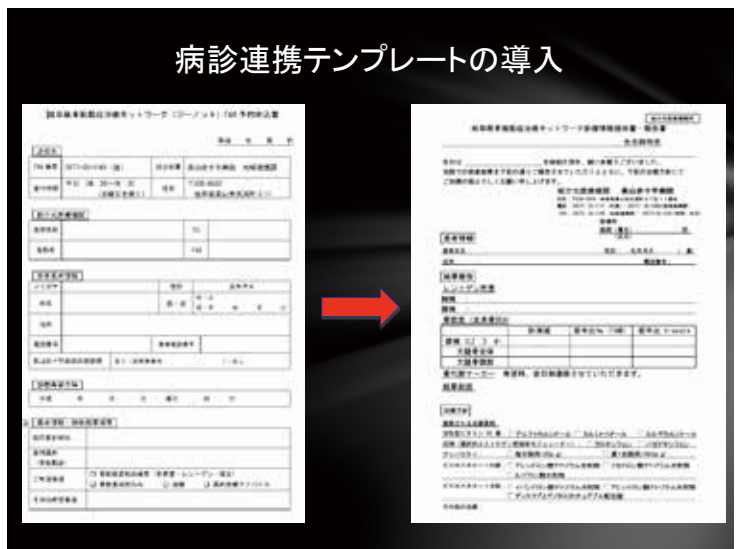
岐阜県では岐阜大学を中心に骨粗鬆症治療ネットワーク（G-Knot（ジーノット）；Gifu ken Network for Osteoporosis Treatment）が立ち上がりました。骨粗鬆症の診断は当院で躯幹骨の骨塩定量検査により行い、同時に治療薬の選定も行います。普段の投薬、治療はかかりつけ医でしていただき、当院では骨代謝マーカーによる骨質評価及び治療効果判定、治療薬の疼痛に対する抑制効果や ADL の改善効果、新規骨折の発症抑制効果等を半年ごとに評価させていただきます。

これらの情報を地域の先生方と共有することで、飛騨地域の骨粗鬆症治療の病診連携を充実させていきたいと考えております。どうぞご協力をよろしくお願い致します。



申込方法

1. 「岐阜県骨粗鬆症治療ネットワーク (FAX予約申込書)」に紹介状を添え、地域連携課にFAXしてください。
2. 地域連携課より、予約通知書をFAXいたします。
3. 紹介状と予約通知書を患者さまにお渡しください。
4. 診察後、「診療情報提供書・報告書」を郵送いたします。



予約申込書のダウンロード

検索ワード 岐阜大学 G-knot

HP アドレス <https://hosp.gifu-u.ac.jp/seikei/g-knot/>

岐阜大学 整形外科 HP 「G-knot」

HP >> 「腰椎・大腿骨近位の DXA がある病院」

>> 「高山赤十字病院」

>> 岐阜県骨粗鬆症治療ネットワーク (FAX予約申込書) を選択してください。

※申込書の雛形の郵送もしくはFAXをご希望の場合は、お気軽に地域連携課までご連絡ください。

よくある質問

Q 1. 半年ごとの評価とありますが、半年ごとに紹介状を作成する必要はありますか？

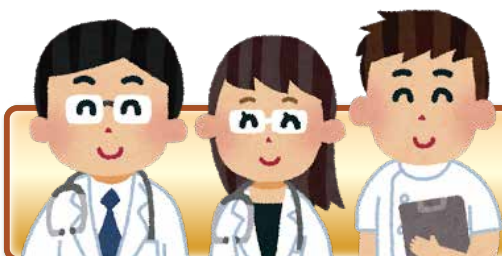
A 1. ございません。基本的には、再診にて受診いただきます。

Q 2. 共同利用の「骨塩定量検査」とどう違いますか？

A 2. 共同利用の場合は、紹介状は必要ありませんが、G-knot の場合は、紹介状が必要です。検査内容の違いはありませんが、G-knot は治療方針と治療薬を推奨し、継続的な評価を行います。

■ 申込先・予約受付 ■

高山赤十字病院 地域連携課 FAX: 0577-32-1165
平日 8:30~16:30 (水曜日・金曜日 PM を除く)



新任医師の紹介



一般外科

原 あゆみ (はら あゆみ)

岐阜市民病院から赴任しました。新しい土地での勤務で不慣れな点も多いですが、みなさんのお役に立てるよう精一杯頑張りたいと思います。よろしくお願ひいたします。



後期臨床研修医(整形外科) 槇 利衣 (まき りえ)

初めまして。愛媛、京都を経てこの高山へ参りました。全てが初めてのことばかりで右往左往しています。ご迷惑をおかけすることもあると思いますが、患者さんが少しでも前向きに治療や手術に臨めるような手助けができればと思います。どうぞ宜しくお願いします。



研修医

桐山 俊弥 (きりやま しゅんや)

地元を離れ、今年度より研修医として高山の地で働くこととなりました。「まごころ」「ほほえみ」「おもいやり」の精神を大切にしながら、飛騨地区の地域医療に貢献したいと思います。市民の皆さまの健康管理の力になれるよう、精一杯頑張りますので、どうぞよろしくお願い致します。



研修医

谷口 奈都希 (たにぐち なつき)

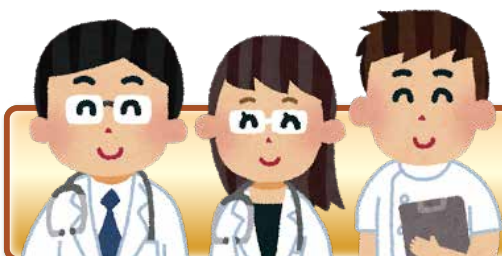
4月より研修医としてお世話になります。愛知医科大学より参りました谷口奈都希と申します。志望は大きく外科系ですが、病理学にも興味があります。医学的なことはもちろん、飛騨についてもあらゆることを吸収する2年間にしたいと思っています。ご指導の程よろしくお願い致します。



研修医

戸原 遼 (とほら りょう)

岐阜大学出身 戸原遼です。これから二年間、初期研修医としてお世話になります。まだ高山に来てから間もないですが、これからたくさんの患者さんとふれ合い、コミュニケーションをとり、高山のことを知っていきたいです。また、信頼される医師になれるように努力していきますので、よろしくお願ひいたします。



新任医師の紹介



研修医 **林 佳奈** (はやし かな)

高山赤十字病院には以前見学させていただき、病院全体のあたたかい雰囲気を感じた事を覚えています。これから診療させていただく中で、この素敵な雰囲気と一緒に生きていきたいです。慣れない仕事に至らない点も数々あるとおもいますが、精一杯頑張りますのでご指導よろしくお願い致します。



研修医 **平野 雅** (ひらの みやび)

はじめまして。私の出身大学は福島県立医科大学です。大学一年時に震災や原発事故等がありました。当初は風評被害など色々ありましたが、地域住民の方の地元を愛し大切にしたい気持ち、そして辛い時こそ笑顔でいる強さ等を学びました。私も笑顔を忘れず、患者さんやご家族に寄り添える医療ができればと思います。よろしくお願い致します。



研修医 **間瀬 純一** (ませ じゅんいち)

地元にも密着しつつも3次救急まで対応するこの病院で勤務したく高山に来ました。病院に来られる方の気持ちに寄り添った医療が提供できるよう精一杯頑張ります!気軽に声をかけてください。よろしくお願い致します。



研修医 **水口 景太** (みなくち けいた)

初めまして。研修医の水口景太と申します。水口は“みなくち”と読みます。高山で生まれ育ち、福岡県にある久留米大学を卒業し、こちらに戻って参りました。患者様には丁寧でわかりやすい診療を心掛けていきたいと思っております。飛騨弁以外はいろいろとわからないことだらけですが一生懸命学ばせていただきます。宜しくお願い致します。



歯科口腔外科研修医 **北村 優** (きたむら ゆう)

歯科口腔外科研修医の北村優です。診療では患者さんに常に笑顔で接していきたいです。高山には半年間しかいませんが、たくさんを経験し、自分の力にしていきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

診療科・職種の垣根を越えた がん Cancer Board

当院は、平成17年1月17日に厚生労働省より「地域がん診療連携拠点病院」の指定を受けています。以来、更新を重ね、「地域がん診療連携拠点病院」の指定を維持しております。

「地域がん診療連携拠点病院」の指定要件のひとつに「がんボードの設置と定期的開催」があります。

がんボードとは、「診療科の垣根を越えて、医師や看護師、薬剤師、ソーシャルワーカーなどのスタッフが、一同に介して患者さんの治療について話し合う検討会」のことであり、当院においても定期的に開催しております。

当院のがんボードでは、医師が毎回分りやすく具体的な症例を挙げて、経過や治療方針（手術、化学療法、薬剤等）について説明し、他のスタッフとの間で検査から術後のリハビリも含めた活発な意見交換や、専門の立場からの提案がされており、病院のすべての職種が、がん患者さんをどのようにサポートできるか話し合う貴重な機会となっています。

がんボードによってスタッフの視点も広がりました。また、患者さんの声や希望をより反映できるよう、今後も多職種が参加し、より良い会となるよう努めてまいります。



編集後記

平成28年4月1日付けで地域連携課に配属されました大沢と申します。

本来であればお伺いすべきところ、この場をお借りして、失礼ながらご挨拶申し上げます。

前任の部署は保険請求業務を所管する医事課でしたので、医療機関の皆様方には何かしらお力添えできるかもしれません。お気軽にお声掛けください。

朝晩にまだ寒々とした日もありますが、日中は動きやすい季節となりました。飛騨地域でも飛騨高山ウルトラマラソン、奥飛騨トレイルラン、乗鞍スカイラインサイクルヒルクライムといったスポーツイベントが開催されています。

自分は膝が…、腰に…という年代に差し掛かろうとしていますので、参加側でなく応援側です。

さて、今号の「がんボード」。医師や看護師、薬剤師、ソーシャルワーカーなどといった患者を取り巻く医療スタッフが、がん患者さんの症状、状態、治療方針等を意見交換や検討するためのカンファレンスです。

当院職員のみで開催しておりますが、がん診療における当院の取り組みをご紹介させていただきました。

これからも飛騨地域の安全でより良い医療の提供の一環として、地域医療連携に努めていく所存です。今後ともご鞭撻のほど、宜しくお願い申し上げます。

地域連携課 大沢 賢二



日本赤十字社

高山赤十字病院
地域連携課

人間を救うのは、人間だ。Our world. Your move.

〒506-8550 岐阜県高山市天満町3丁目11番地
TEL : 0577-35-1880 FAX : 0577-32-1165
メールアドレス byoshin@takayama.jrc.or.jp
ホームページ <http://www.takayama.jrc.or.jp/>